

第14回「文芸思潮」エッセイ賞 中間発表 一次・二次・三次予選

第14回文芸思潮エッセイ賞予選通過者発表

- 「禁句」 上杉辰也

○ 「祝?四十一・一度」 小島恒夫 北御門

○ 「パリでの思い出」 嬉代子

○ 「闘うブス」 加藤ゆうじ 「スポーツ」とメディア報道

○ 「いつちやい」 華央子

○ 「白日」 機微

○ 「癌紀元後の世界」 松岡久仁子

○ 「死の予感」 馬込太郎

○ 「十五歳の春の友」 寒川靖子

○ 「詫び」 齋藤はなみ

○ 「異文化ってほんとうにあの?」 大木独樹

○ 「父を尊敬した日」 多良はしき

○ 「長女に仕返し」 紙屋里子

○ 「人形への恩返し」 ナオミ

○ 「西郷も大久保も喜んでいる」 宮島孝男

○ 「人魚姫は発達障害」 愛甲無子 平岡佐一

○ 「新聞紙に包まれたお菓子」 堤万里子

○ 「結婚二年目の悪夢」 藤井典央

○ 「失敗覚悟の結婚」 椿貞奈美

○ 「縁は異なるもの」 シンジ一

○ 「賄い隠居返上の記」 松本鈴子 オレラの運動会

○ 「痛のバカヤロー」 倉沢辰子

- | | | |
|------|----------------------|------------|
| ◎ | 「地宇宙人は幸せか」 | 奥泉 篤 |
| ◎ | 「鼻騒動」 | 安保美智子 |
| ◎ | 「訳が分からなくなるとも、面白い」 | 安部としき |
| ◎ | 「食む喜び」 | 豊田崇久 |
| ◎ | 「神猫になつた『喜喜』」 | |
| ◎ | 「ここにしかない風」北 春美 | |
| ◎ | 「もの言う背中と一枚皮」 | 横井純子 |
| ◎ | 「整形外科の病室」 | 小林きみ子 |
| ◎ | 「ねえ」 | 早川春美 |
| ◎ | 「ヤブもまた名医」 | 金徳志津江 |
| ◎ | 「長崎の鐘」 | 柴田節子 |
| ◎ | 「兄のこと」 | 森千恵子 |
| ◎ | 「化粧品売場の出会い」 | 岩澤 薫 |
| ◎ | 「農作業に汗する男」佐藤義弘 | 遠藤恵美 |
| ◎ | 「ギヤラリィにて」岬 千鶴 | |
| ◎ | 「猫と私」高谷紀久子 | |
| ◎ | 「ボジティップに生きる男からの教え」 | |
| ◎ | 「ピアノ」 | 須貝 誠 |
| ◎ | 「合格祝い」 | 武中 彩 |
| ◎ | 「そのきっかけが人生の帆を大きく変えた」 | 小平正市 |
| ◎ | 「猫闘闘記」 | 星野優佳 河井みかこ |
| 「弁当」 | おおら和男 | |

- 「いい日旅立ち」 濑戸清子
○ 「正み、自分には言い聞かせる」 岸間さひろ
○ 「初めての広島、今でも蘇る」 折乃笠公徳
○ 「考えるな 感じろ！」 江本精
○ 「夏の夜は」 成田英明
○ 「六十九歳」 田中恵子
○ 「定年後の生き甲斐」 矢口慎三
○ 「傷み」 出口愛実
○ 「忘れ得ぬ言葉」 服部三千
○ 「『団塊の世代』を生きる」
○ 「証」 熊谷一郎
○ 「ううん、いいねえ」の意味 東野洋惺
○ 「過ち」 池永伸二
○ 「イメージすること」 流水音
○ 「未知との出会い」 宮尾美明
○ 「諦めと努力」 きなりかず
○ 「失業にともなつて」 紀美子イエガ
○ 「或るクリスマス」 織本一十未
○ 「ガラスの心」 飛島涼子
○ 「オリンピックの季節の後で」 大島直次
○ 「四個のコッペパン」 濱田キミ子
○ 「バラリンピックの現状を杞憂 德安利之
する」 久保田鶴子

- 「人生を彩る人事異動」
磯山信夫

○「スキマのこと」
浦島智緒

○「背中からの卒業」
玻璃

○「認知症になった父」
イングリッシュユローズ

○「母への感謝状」
山口政行

○「恨みに恨んだ父母との関係」
Kotori

○「夜汽車」
鉢之原まさ子

○「春の指標」
冬樹眞沙

○「荒城の月」
フェスター

○「四十肩」
山野幸吉

○「任運騰騰」
三浦洋子

○「ひとりぼっちで旅立つていつ
た、母への懺悔」
墨島碇

○「夫婦のかたち」
だいちゃん

○「枕飯」
高橋恵里花

○「冷たい手」
牧康子

○「ルン～カラチヤクラの舞
」
渡邊和

○「限りなく心よする人 in Georgia
in America」
鎌田かをり

○「初耳」
笛野雪

○「50代の自分探し」
DON'T LOOK BACK

○「母の閨房」
益子龍次

- 第14回 「文芸思潮」エッセイ賞に御応募いただき、まことにありがとうございました。おかげさまで、日本全国および海外から総数三四四編の作品をお寄せいただきました。心から御礼申し上げます。去る三月末日に締め切らせていただき、厳正な一次・二次・三次予選審査を行ないました。その結果を謹んでここに発表させていただきます。

無印は一次予選通過者、○印は二次予選通過者、◎印は三次予選通過者です。

◎ 「墓に手錠を手向けたい」	「笑顔絶やさぬ両親を偲ぶ」
○ 「カエル」	○ 「札幌ラーメンの思い出話」
○ 「T G C と私」	○ 「酒は微薫に止むべし、じや」
○ 「戦争の悲劇」	○ 「泣血斎」
○ 「ある朝突然に」	○ 「透析室へようこそ!」
○ 「自由の謎」	「なくしたい、児童虐待」
○ 「不器用」	ゴルビー長田
○ 「さまよう猫たち」	新井伸一
○ 「チヨコレートと涙」	中村行寿
○ 「うしやん、トラちゃん」	阿久根ケン
○ 「好機好齢者」	南條美起子
○ 「茂木けんじ	清水真由美
○ 「『恐い先生の話』 キヨコさん	有賀燈心
○ 「押しかけ猫・我が家の場合」	南條美起子
○ 「きょうだいの縁」	灯火はたる
○ 「新年の本当の始まりの刻」	龍沢 鈴
○ 「台場」	有澤かおり
○ 「泥棒と祖父と」	

- 「猿の脳みそ」 林勢津子

○ 「女の子を育てるといふ事」 朝川 渡

○ 「能面アクトレス」 吉村紗菜

○ 「ザンビアの夜」 松原泰子

○ 「平成の大震災」 (苔むした石碑) 濱谷津江子

○ 「私の場合」 文月 嵐

○ 「幻覚の色彩——こわして、気づいたこと」 高橋和彦

○ 「暗闇を走る足音」 喜多木本常雄

○ 「母が私を描写した」 黒川路子

○ 「越中富山の薬売り」 木下 隆

○ 「小さな手の想い出」 内山秀男

○ 「郵便馬車の鈴は鳴り響いて」 菱川町子

○ 「出逢い」 岛 佳邦

○ 「暇つぶしと考察」 汽水実季

○ 「私のおじいちゃん」 有利

○ 「精神を病む」ということ」 森 悼

○ 「自転車屋ジミーちゃん」 anehako

○ 「トイレの月」 マツイアキラ

○ 「箱」 寿々木

○ 「小学生の私は、早く大人にならなかった。」 土田ともり

「鍵をなくす」 阿部紘久

「日本狼と繩文人の精神性」 我妻哲男

○ 「加生」 下元省吾

○ 「時の氏神」 小西忠彦

○ 「モノクロメガネ」 福丸

○ 「田舎の母と都会に行つた娘の話」 佐藤小梅

○ 「貧乏性」 桜子

○ 「『介護しない』という選択肢」 望月ひろこ

○ 「血液型はジャンケンボン」 白戸 篤

○ 「ばつくり寺」 信濃川一平

○ 「十六才の夏」 坂本孝恵

○ 「天神天神甲申甲申と祈る」 本間 浩

○ 「弟の親友、莊君」 河上美智子

○ 「養老院」 近藤幹夫

○ 「教師になる」 真田 圭

○ 「猫」 新田文男

○ 「日・ユダヤ同祖論」 論考

伏魔殿の主

第14回文芸思潮エッセイ賞予選通過者発表

Essay Contest

- ◎ 「魅力ある美的指向を目指して」 大出光一

◎ 「K子さんのプライド」 富田真子

◎ 「靈は幻か実体か」 西島雅博

◎ 「ゴーリング マイ ウエイ」 みねきみや

◎ 「宣誓」 カート・トシ

◎ 「商業捕鯨」 小林恵津子

◎ 「カモメの水兵さん」 海輪 有

◎ 「失敗は、成功の一歩」 秋野今日子

◎ 「限界集落」 鈴木正治

◎ 「さよならの扉を閉めて……」 瓜生陽子

◎ 「ジイジとシュン」 片山二郎

◎ 「ポピュラー映画、どこへ行く」 井口海斗

◎ 「徒步十五分、美を探す旅」 八ノ瀬葉子

◎ 「私と娘の『旅立ちの日』」 建内真由子

◎ 「コーヒーの私から紅茶の私たちへ」 室谷明子

◎ 「私のお義母さん」 石井良武

◎ 「父」 房田小百合

◎ 「また来ます」 此木ミツル

○「伊勢ものがたり」宮川桜花
 ○「死ぬとき人は、何を思うか」山崎美由紀

◎「経済至上主義の成れの果てを」
 豊う 佐生綾子

◎「遅れてきた葉書」高澤宏至

◎「ピアノと困った顔の物語」流川千里

○「S.Lのお召し列車」野宮健司

◎「四十過ぎ、コールセンターの一日」
 バイトとボルノ映画館の一日 鈴木あきら

○「この世は不思議」見汐麻衣
 「拝啓、根明人間さま」望月遥瑛

◎「失われた尊嚴」会沢ユカ
 「二十歳の迷子」森崎律子

○「一〇二歳、空が青い」丸白遊
 ○「もう一つの『絆』」澤井樹生

○「今も変わらない生命の一割の
 謎」真栄田光
 ○「Mステ」桃峯未己
 ○「スーパー・シティ」藤井杏子
 「やさしくなりたい」倉橋えん
 「自転車でゆるやかに」田口一行

○「今、できること」名嘉山レイ
 ○「モラルゼロ」司波歩
 「お受験」西直人

- 「老いはそんなに悪いものですか？」
○「自分探しにじらせ女子」
さわりえ
「患者さん言行録」 谷内修三
「障害児の親歴一年」 三島知子
○「幾代伯母」 青柳みすず
○「贈り物に込める」 高岡隆一郎
○「アザ」 下釜美和子
「無題」 水無月さやか
○「あの日から」 二〇一一年三月
一一日 吉田宏子
「動物園はZooってんだ、さーあ、
行こう！」 大原野 悠
「法的後進国日本」 徳田吉映
○「母の長い眩き」 龍島彌子
「こちらで少々お待ちいただけ
ますか？」 かとうまなみ
○「二十年後の約束」 草野修一
「生前レクイエム」 松宮いさこ
○「看護学生だった頃」 ひらさん
○「『豚天使』任命」 櫻川ふみ
「バタン・ブー」 デビミフカオ
○「私の愛したお医者さん」 堀井孝雄

○「バーバラとの一期一会」 前岡光明

○「なぜ『聴覚障害は特殊過ぎる。』と言われるのか?」 横山典子

○「義母の生き方」 田中 誠

○「音楽とアイドル」 伊藤ひろき

○「ねえ、母さん」 田代千賀子

○「港の時代」 人間六度

○「ワルナ・ワルニ」 不破しまと

○「そんな私はこんにゃくカレ」 片桐春佳

○「田舎暮しの未来」 里山さくら

○「2000キロかけて言葉を覚える」 植松宏真

○「つながる」 山崎留美

○「握りの砂」 高知美貴子

○「天恵戒驕」 荒田正信

○「式には行かない」 鹿室歩美

○「阿久悠となかにし礼に見るラ イバル関係」 弟子丸博道

○「塵も積もれば山となる」 佐藤共子

- 「母の富士山」 村松佐保
 　○ 「映画に魅せられた青春の記」 相馬 晃
 　○ 「最期の幸せ」 金田一 淳
 　○ 「とんでもない老後」 清月良子
 　○ 「少年と戦争」 皆川昭夫
 　○ 「声」 夏 热田
 　○ 「崩壊」 中武 寛
 　○ 「蠟梅」 橘いずみ
 　○ 「真夜中の並走」 灘上文彦
 　○ 「日日是終日」 沢木 稔
 　○ 「老いの偏屈」 高橋惟文
 　○ 「母の今昔」 前田 遊
 　○ 「キラキラエッセイ」 元晶
 　○ 「少年」 飯島もとめ
 　○ 「少女は何をしていたか」 山家衛良
 　○ 「愛への執着心と翻弄される日々」 植田遙海
 　○ 「福祉の現実」 田中美晴
 　○ 「雪の日のマジック」 藤野なつみ
 　○ 「クリスマスローズ」 下村きよ子
 　○ 「夢の萌芽」 佐藤勝美
 　○ 「駅前の喫茶店」 小金丸ふみひと

- 「クリスマスの贈り物」 中原節子
- 「十六年目の『FOREVER LOVE』」 尾下健治
- 「ステンレス鋼」 小倉一純
- 「ノスタルジック・ブルー」 志津香
- 「春待つ幽靈」 折田侑駿
- 「人を変えること」 吉乃シマ
- 「冬の音『魔王』」 渡澤京子
- 「父の散髪」 ブン・ブンコ
- 「小学生のシニヨリッジ」 相良勇次
- 「結婚三十周年記念の指輪」 八代 穂
- 「湖のうた」 中村真知子
- 「V S 美容室」 大チ茂ミ
- 「異文化との遭遇」 長谷川敏久
- 「生きた記憶と奇跡の日々」 蘇芳夏生
- 「場の発達障害と時の光」 賀内芳樹
- 「知らずを知る」 水野由貴
- 「父のメモ帳」 水島恵子
- 「夢」 水明
- 「DRAMATOLOGY」 三木幸子
- 「花のある仕事」 中原節子
- 「人生を変えた一本のビデオ」 佐藤清助

- 「映画『ゲッベルスと私』」「特別なゲストを目指して」 柳田恒代 熊谷和代

○「介助、赤ちゃん、神と死者」 茂木秀之

○「粉骨碎身」 工藤恒夫

○「南海に散華した父」川口正浩

○「春がくれた贈り物」亀山憲子

○「カンガルー島」 星リリコ

○「初仕事や銀座の恋の物語」 赤間尊子

「ドライバーのコードが挟まれた時のこと」を記す文書に関する随筆

○「トドを殺すこと」は自分達を殺すこと 北のダイバー

○「にびいろのそら」 南沢卓郎

○「損得感情」 三浦道朗

○「ゴジラと天使のハンマー」 KENTARO YANO

○「死後の人生」 滝 輝光

○「父子」 上野 達

○「分からぬ」 小林 済

○「夢のちょっと手前の場所」 森岸真鳴

○「胡蝶蘭」 浜比嘉邦子

○「幸せになりたいって何だ」 猫背の犬

◎ 「優しい雷」 中江光太
◎ 「命のバトン」 宮地政利
◎ 「アンハッピー・エディング」
◎ 「運を掴むには…」 柿本光一郎
◎ 「知らない海」 山本ワタル
◎ 「なくしたお財布」 高橋裕輝子
◎ 「神社の境内で」 山田葉月
◎ 「体樹」 池上結手樹
◎ 「テーブル家族」 水谷信子
◎ 「日本は本当に埼玉化するか」 宮澤鏡一
◎ 「継ぎゆくひと」 中村郁恵
◎ 「人生最初の衝撃」 荒木景子
◎ 「教育勅語を読んでみた」 福本彰一
◎ 「忘れられない味」 大木寛之
◎ 「医原病と自死」 幸田芳樹
◎ 「生き方と終いの方」 一みゆき
◎ 「地球村『雑草園』から」 重松博昭
◎ 「心の相続」 坂元淳子
◎ 「サラリーマン気質」 武川京太
◎ 「知り合い以上ともだち未満」 小野寺ひろる
◎ 「さくらさく」 黒崎みき
◎ 「わたしのハム」 森住さとり

エッセイ賞応募者の皆様へ 第一次・第二次・第三次の選考基準について

●第14回「文芸思潮」エッセイ賞への御応募まことにありがとうございました。第一次・第二次・第三次選考について選考委員会より付記させていただきます。

第一次の選考基準は、他者に対する伝わる文章になつてゐるかどうかが最重要の基準点です。しかし書く姿勢も加味させていただきました。少し文章が粗くても、他者に訴えたい切実なものが感じられる作品は一次を通過しています。また逆に文章は整つても、書く姿勢に曖昧なもの、書く必然性が希薄なもの、中途半端なものは落とさせていただきました。この二点をクリアしたもののが一次予選通過者です。何%とか、何篇以内とか、数字の枠はありません。したがって、応募者全員が一次予選合格ということもあり得ます。

また第二次予選は、その中でさらに強く何かを感じられるもの、光るもののが選ばれます。何かが読み手の中に残つてゐる作品ということになります。内容でもいいですし、文章でもいい、一行でもいい、一人の人物でもいい、見方でもいい、何か一つ心に残るようなものがあると、上に拾い上げたくなるという、一つの魅力を持つてゐるかど

第三次予選は、よりたくさんの人々に読んでほしくなるような普遍的な力を備えているかが、選考の基準になります。第三次予選まで通過した作品は、だいたい雑誌に載つてもいい、人に読んでもらつても何か訴える力を備えていて、読んだ人の心に何かが残つて新たなる力になるような作品です。「文芸思潮」選考委員会では、選考の便宜性を重視して作品数によって制限するのではなく、作品の内容を重視して、優れた作品がたくさんあれば、できるだけその作品の価値やレベルによつて、作品を残すよう心がけています。したがつて、場合によつてはたくさんの作品が三次予選、さらにつきにその上に選出される可能性もあります。

(「文芸思潮」エッセイ賞選考委員会)

小説の書き方を体験を踏まえて丁寧に解説する小説指導書

小説の書き方 —作家を志す人のために—

五十嵐 勉

税込 1000 円 御注文はアジア文化社まで